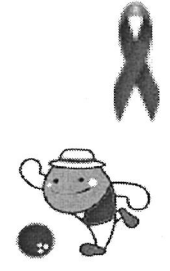




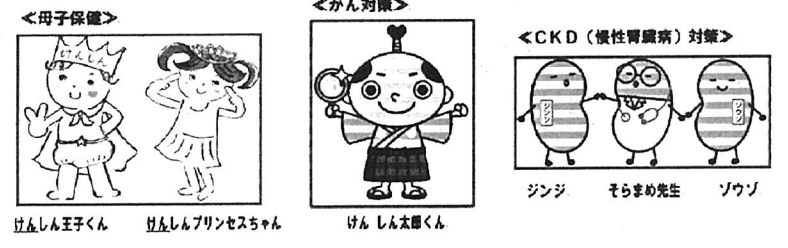
平成27年度第1回中国・四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会
2015年8月21日

高知県における診療連携について

高知県健康政策部 健康対策課 福永一郎



健康対策課 ☆ オリジナルキャラクター



略歴 福永一郎(ふくなが・いちろう)
1961年広島県呉市生まれ、中学、高校、予備校時代に広島市内へ通う
1987年岡山大学医学部卒業、臨床従事
1990年香川医科大学助手(衛生・公衆衛生学)
1993年香川県庁(県下保健所等勤務)
1999年香川医科大学助教授(衛生・公衆衛生学)
2003年保健計画総合研究所 所長(中間法人)
有限会社HK代表取締役社長
財団法人正光会今治病院医師
2009年財団法人正光会医監・精神衛生研究所副所長・同宇和島病院専属産業医・医師
2009年12月高知県庁 須崎福祉保健所保健監(保健所長)
2012年高知県健康対策課長
現在 健康対策課長、衛生研究所副参事、療育福祉センター高知ギルバーク発達神経精神医学センター副参事、地方職員共済組合高知診療所(県庁内診療所)医師
医師、医学博士。日本公衆衛生学会認定公衆衛生専門家
高知大学医学部臨床教授
日本公衆衛生学会評議員、日本衛生学会評議員
日本温泉気候物理医学会温泉療法医
日本医師会認定産業医、難病指定医



HIV/AIDSとのかかわり

- 1991~1992年 香川医科大学でHIV対策の講義を担当
- 1993~1998年 香川県下の保健所でHIV相談検査に従事
- 1995年 カウンセリング研修受講、国立公衆衛生院研修受講
- 1995年 NiftyServe エイズフォーラム「FAIDS」スタッフに就任(～2000年)
- 1996年 ライフ・エイズ・プロジェクト機関誌 LAP Newsletterにエッセイを連載(～2005年)
- 1996~1999年 香川県多度津町エイズ教育(性教育)推進委員会委員(香川県教育委員会モデル事業)
- 1999~2003年 香川医科大学でHIV対策の講義を担当
- 1999~2002年 香川県飯山町エイズ教育(性教育)推進委員会委員(香川県教育委員会モデル事業)
- 2002~2005年 香川県豊中町エイズ教育(性教育)推進委員会委員(香川県教育委員会モデル事業)
- 2005~2009年 長いブランク(浦島太郎に)
- 2009~2012年 高知県須崎福祉保健所でHIV相談検査に従事
- 2012~現在 高知県健康対策課でHIV/AIDS対策に従事



HIV/AIDS関係の発表、著作など(一部)

- ・福永一郎, 高田昇, 伊勢和宏, 白坂真男: 市民レベルで参加可能であった効果的AIDS普及啓発活動の一経験 エイズフォーラム~オンラインネットワーク上における資料供覧, 配布の試み. 四国公衆衛生学会雑誌 40(1) 238-244 1995
- ・福永一郎, 小笠原民子, 武田真智子, 高橋祥子, 吉本恭子, 関幸江, 小林京子, 宮田順子, 実成文彦: 地方におけるエイズ啓発活動に関する実践的検討 香川県多度津町での一経験より. 四国公衆衛生学会雑誌 43(1) 156-163 1998
- ・福永一郎, 山口一郎, 伊勢和宏, 高田昇, 白坂真男, 實成文彦: エイズ教育に関する意識調査. 1998.12.1 第12回日本エイズ学会抄録集.



感染予防には「不特定多数のセックスを避ける」とした群より、「愛があっても感染するのでパートナーとの対話が重要」とした群の方がエイズ教育に対して肯定的・積極的な傾向にあった。

・LAP Newsletterのエッセイは本になりました。



平成26年5月4日
高知新聞朝刊

県内診療所

HIV 歯科治療拒否

陽性者に「外に知れる」

県内で暮らすエイズウイルス(HIV)陽性者が昨年、歯科診療所で受診した際に感染の事実を告げたと、歯科医師からその後の診療を断られていたことが関係者への取材で分かった。歯科治療とされる感染対策を行っていたら、一般診療所でも陽性者やエイズ患者を安全に治療できるが、医療側の知識不足や偏見などから断るケースが全国的に相次いでいる。県内のエイズ治療の中核を担う高知大学医学部付属病院によると、県内での診療拒否は「把握している限り初めて」。あつてはならない」と、歯科医師らに対応を呼び掛けている。(29面に関連記事)

この陽性者は数年前に感染が分かり、同大病院に通院。現在は薬が効き、一感染前と同じように働いているという。

ウイルスの状態が落ち着いた昨秋、感染が分かった前かからかりつけた歯科診療所で初めて受診。歯科医師に感染していることを払いのけられた。

すると、歯科医師は簡単な処置の後、その場で「ここで治療を続けることは外に知れる可能性があるため、次からは医大(高知大)で治療を受けてください」と告げた。歯科医師は症状を尋ねたり、同大病院に問い合わせることもなかった。この陽性者は偏見による門前払いのようを感じたと

HIV 感染治療拒否

県内の歯科診療所

偏見・情報不足が背景

適切な対応を

4割「患者受けない」

高知大学医学部付属病院の感染科は、今年10月、かみでひびいた。歯科診療所でHIVに感染していることを告げた。あつてはならない」と、歯科医師らに対応を呼び掛けている。(29面に関連記事)

県内ではエイズウイルス(HIV)感染者は、感染を専門とする治療所へ行くことが一般的だが、高知大学医学部付属病院の感染科によると、県内では約4割の歯科診療所がHIV感染者を受けないという。高知大学医学部付属病院の感染科によると、県内では約4割の歯科診療所がHIV感染者を受けないという。

高知大学医学部付属病院の感染科によると、県内では約4割の歯科診療所がHIV感染者を受けないという。

HIV対策

健康対策課

感染症

医事薬務課

医療安全、院内感染

(ただし針刺し事故対応は、HIVだけが健康対策課)

歯科

健康長寿政策課

医療提供体制

医療政策課

いわゆる縦割り行政...

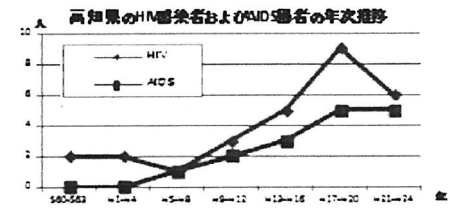
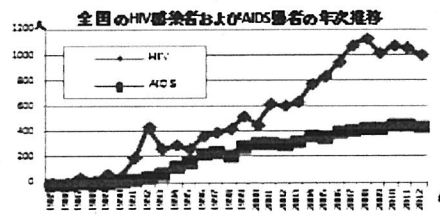
・きわめてスピード感が高く、感染症対策の専門的な対応が必要
・歯科だけの問題でもない
→ 主に対応する課が、歯科保健を担当する課から、健康対策課へ移る

現状と課題

論点整理

◆HIV感染者・AIDS患者の状況

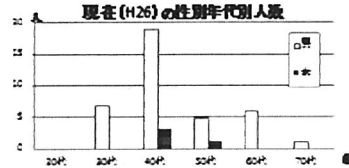
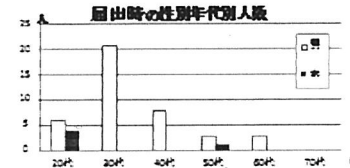
○HIV感染者・AIDS患者の新規届出者は20-30歳代が70%を占め、依然増加傾向。



○治療の進歩により通常の社会生活を送るHIV感染者・AIDS患者が大半に。

HIV感染症は、治療の進歩により「特別な病院で治療が必要な死にいたる病」から『身近な施設で治療ができる慢性疾患』に変化。

患者の高齢化



◆治療の状況

- HIV感染症は抗ウイルス薬の進歩で、予後が大きく改善。
ただし、完治するわけではなく、薬を飲み続けることが必要。
- 通院頻度が高い診療科の診療は一般医療機関の活用の要望が強い。
慢性疾患治療となったことで、遠距離の拠点病院への通院が負担となることから、歯科、皮膚科、耳鼻科等の通院頻度の高い診療科は、自宅近辺の一般医療機関での診療の要望が強くなっている。

医療連携体制の構築が必要 → 高知県では十分ではない。
(全国的に、歯科以外の連携方法は整理が出来ていない)

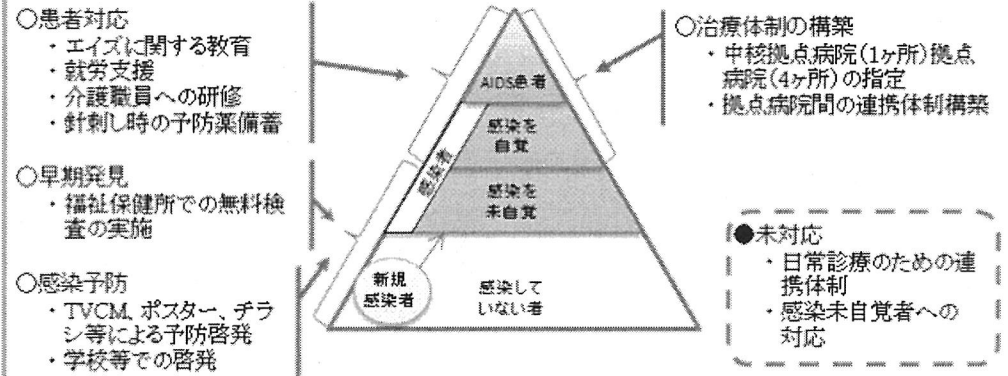
- これから求められる医療・介護体制
高齢化社会は、HIV感染者・AIDS患者も同じ。

過去	現在
死にいたる病 特別な病院で治療 ターミナルケア	慢性疾患 身近な施設で治療 就労支援 高齢者対策 介護

今後必要な対応

- 日常診療に関する診療連携体制の構築
 - ・患者の拠点病院以外での診療状況の整理
 - ・診療連携をするうえで一般医療機関に必要な機能(条件)等の整理
 - ・各地域に必要な医療機関の必要数の整理
 - ・診療連携のためのツール(様式等)の作成
- 一般医療機関等への研修の実施
 - ・最新のエイズ治療についての周知
 - ・エイズ、HIV感染者への診療において必要な知識及び技術の習得

今までの対応



- 未対応
・日常診療のための連携体制
・感染未自覚者への対応

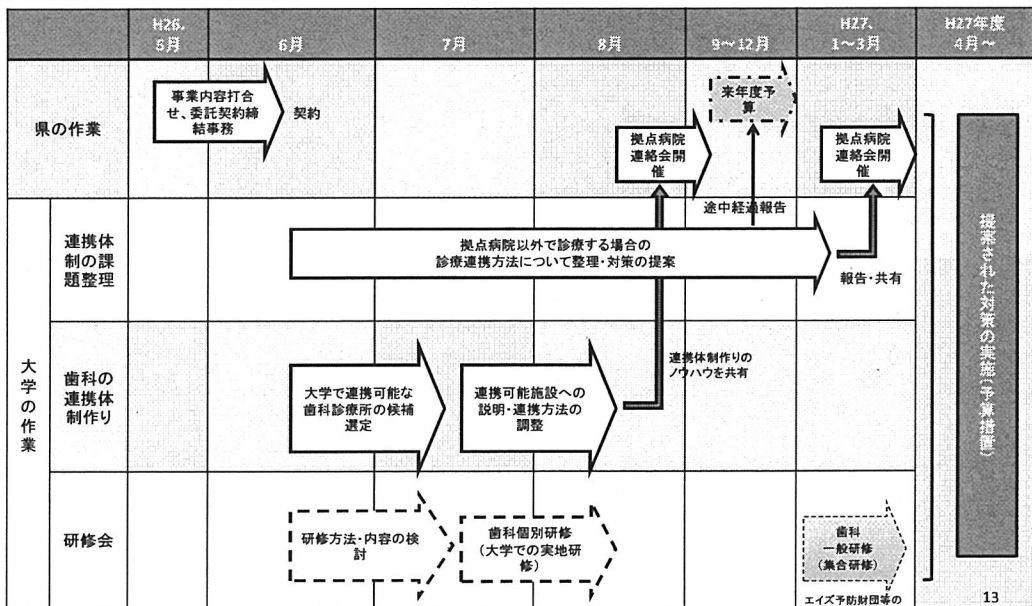
高知県と高知大学との間で委託契約締結！

HIV診療連携体制強化推進事業

委託内容

- 1 地域においてHIV感染者等に対する日常の歯科診療を行うために必要な条件やその条件を満たし、協力の得られる歯科診療所(以下「協力医療機関」)の必要数等を整理して、エイズ治療拠点病院を核とした診療連携体制について提案する
- 2 エイズ診療治療拠点病院及び協力医療機関への報告及び支援
- 3 歯科診療における協力医療機関に対する研修会の実施¹²

スケジュール(案)



HIV歯科治療で連携

高知大病院 介 県内13施設受け入れ

エイズウイルス(HIV)に感染した陽性者やエイズ患者の歯科治療を、地域の歯科医療機関で受け入れる診療連携体制がこのほど、県内で初めて整った。昨年、県内の歯科診療所で感染を理由にした治療拒否が起きたことを機に、13市の13施設が参加して構築。感染対策の研修を受けた歯科医師らが、高知大学医学部付属病院から紹介された陽性者らの治療に当たる。



マスクや手袋の着け方などを学んだ感染対策研修会
(南田市の高知大学医学部付属病院)

エイズは「後天性免疫不全症候群」のこと。HIVに感染後、体の抵抗力が落ちて日和見感染症などを発症する。エイズと診断される。県内では40人余りの陽性者や患者が暮らしている。

現在ではウイルスをコントロールする薬があり、非感染性で長期間変わらない生活を求められるようになったが、偏見は根強い。歯科では標準の感染対策を行えば一般診療でも安全に治療できるが、医師の知識不足や偏見から治療を拒否したり、陽性者や患者が感染に取り組んでほしい、事実を言わないま

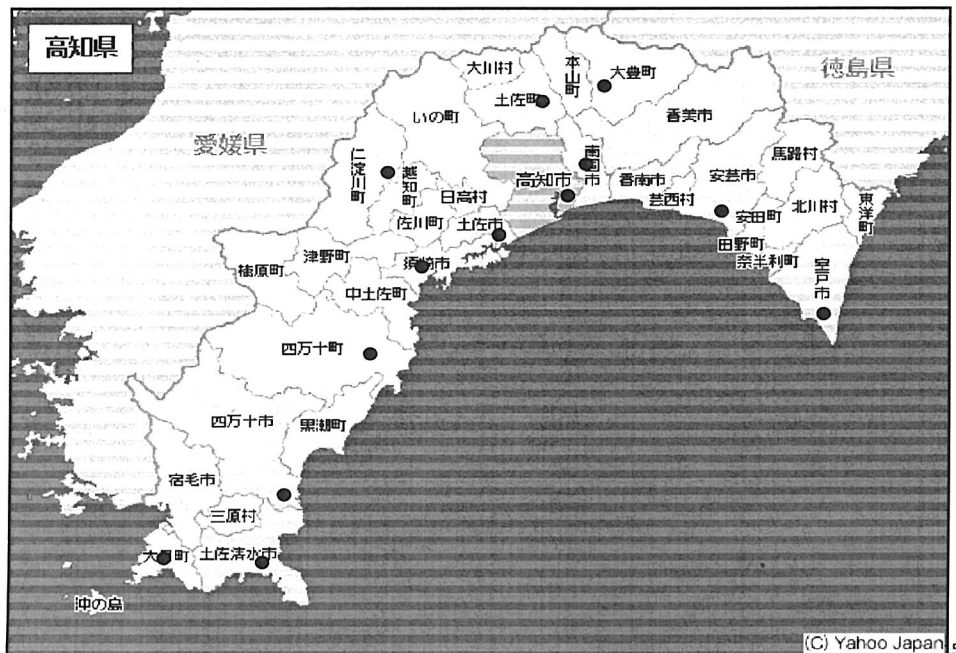
ま診したりするケースが全国で相次いでいる。県内の診療連携体制は、県から委託された同大病院が県歯科医師会会員の協力を得て構築した。陽性者や患者に歯科治療が必要になった際、身近な地域での治療を望めば、該当する施設を両病院が紹介。症状やウイルスの状態を伝え、診療に役立ててもらおう。

同大でこのほど開かれた研修会には、協力施設を含む歯科医療機関の歯科医師や歯科衛生士ら約40人が参加。広島大学大学院の栗原英司教授らが講演し、HIVの基礎知識や歯科治療の現状を紹介。「医療安全は医師者の社会的責任。口腔(こうくわ)感染症の専門家として、医科との連携を取り組んでほしい」と呼び掛けた。マ

(南田照三)

針とのはい便し力のを...染浄ス

高知県HIV陽性者歯科医療ネットワーク登録歯科医療機関(13施設)



目次

- I. HIV陽性者・AIDS診療に係る歯科診療連携の概要
 - 1. 目的
 - 2. 連携体制の概要
 - 3. 対象施設
 - 4. 連携の内容
- II. 診療連携の流れ
 - 1. 歯科診療連携の流れ
 - 2. 連携体制・研修における役割
- III. その他
 - HIV陽性者診療科マニュアルについて
- IV. 資料
 - 1. 歯科診療連携体制

高知県における HIV 感染症・AIDS 診療に係る 歯科医療連携の手引き

高知大学医学部附属病院
(平成26年度歯科医療安全協働研修会研修資料(HIV 関係))

歯科診療情報提供書

紹介先歯科医療機関名

紹介元医療機関名

担当医

先生御机下

〒

TEL:

(内線

)

お世話になります。ご多忙中とは存じますが、ご加療のほど宜しくお願い申し上げます。

ふりがな	
名前	(男・女) 西暦 年 月 日生 歳
傷病名	
紹介目的と経過	
既往歴	
アレルギー	薬物アレルギー (有・無) → 有 () 食品アレルギー (有・無) → 有 () その他 (有・無) → 有 ()
HIV 抗体陽性診断	診断日 西暦 年 月 日 (HIV 感染症・AIDS)
最新データ (/ /)	CD4 陽性リンパ球数: / μ l、HIV ウイルス量: コピー/ml GOT: IU/L、GPT: IU/L、WBC: / μ l、血小板: $\times 10^4$ / μ l
感染症血清検査	HB _s 抗原 () HB _s 抗体 () HCV 抗体 () TPHA ()
現在の処方	・抗 HIV 薬処方 (有・無) → 有 () 飲み合わせでの注意 (有・無) → 有 () ・その他の処方
備考	

高知口腔科学研究会 特別研修会

歯科における感染予防対策を再考する！ -基本的知識から歯科診療室での実際まで-

日時:2014年9月28日(日) 10:00~13:30

場所:高知大学医学部 第1・2講義室(下記参照)・歯科口腔外科外来
参加費:無料

10:00~10:50 「ウイルス性肝炎の現状と歯科治療における留意点」(第2講義室)

廣瀬 享先生(高知大学医学部 消化器内科学講座 助教)

10:50~11:40 「歯科診療所における医療安全担保の新たな取り組み」(第2講義室)

栗原 英見先生(広島大学大学院 医歯薬保健学研究院

応用生命科学部門 歯周病態学研究室 教授)

11:40~12:10 「歯科診療室における感染対策の基本」(第2講義室)

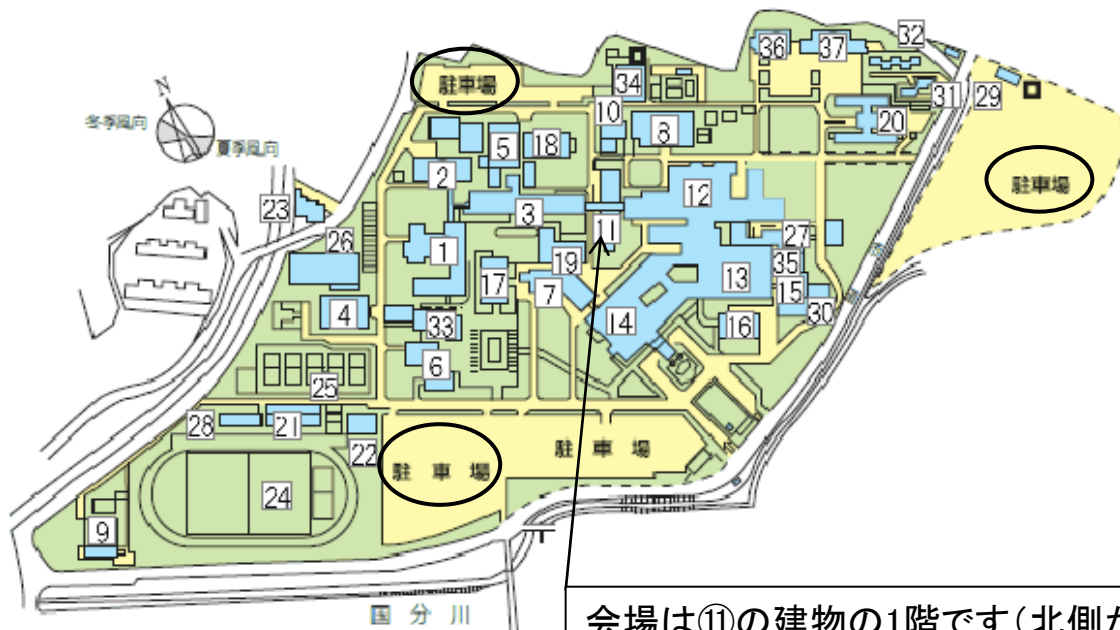
中岡 美由紀先生(広島大学病院 診療支援部歯科衛生士部門 部門長)

12:20~12:40 ランチョンセミナー 「歯科領域における経口抗真菌薬」(第1講義室)

12:50~13:30 「歯科診療室における感染対策の実際」(歯科口腔外科外来)

栗原 英見・中岡 美由紀先生

* 歯科口腔外科外来診療室に移動して、感染予防対策の実際について教えて頂きます。



会場は⑪の建物の1階です(北側が第1講義室、南側が第2講義室)
駐車場は、建物のすぐ南側あるいは東側の駐車場もしくは左図の○で囲んだ駐車場を使って下さい。

HIV 歯科治療で連携

高知大病院 紹介 県内13施設受け入れ

エイズウイルス(HIV)に感染した陽性者やエイズ患者の歯科治療を、地域の歯科医療機関で受け入れる診療連携体制がこのほど、県内で初めて整った。昨年、県内の歯科診療所で感染を理由にした治療拒否が起きたことを機に、13市町の13施設が参加して構築。感染症対策の研修を受けた歯科医師らが、高知大学医学部付属病院から紹介された陽性者らの治療に当たる。

(門田朋三)



マスクや手袋の着け方などを学んだ感染症対策研修会

(南国市の高知大学医学部付属病院)

「ま受診したりするケースが全国で相次いでいる。」

県内の診療連携体制は、県から委託された同大病院が県歯科医師会会員の協力を得て構築した。陽性者や患者に歯科治療が必要になった際、身近な地域での治療を望めば、該当する施設を同病院が紹介。症状やウイルスの状態を伝え、診療に役立ててもらおう。

同大でこのほど開かれた研修会には、協力施設を含む歯科医療機関の歯科医師や歯科衛生士ら約100人が参加。広島大学大学院の栗原英見教授らが講演し、HIVの基礎知識や歯科治療の現状を紹介。「医療安全は医療者の社会的責任。口腔(こうくわ)感染症の専門家として、医科との連携に取り組んでほしい」と呼び掛けた。マ

スクの着け方や手指洗
浄の徹底など標準の感
染症対策も学んだ。

高知大は今後も研修
を予定。歯科口腔外科
の山本哲也教授は「協
力施設をさらに増や
し、陽性者や患者の利
便性を高めていきたく
い」と話している。県
は来年度以降、その他
の診療科や高齢者施設
との連携を検討する方
針。

HIV感染理由に拒否

高知の病院 かげの受診を

エイズウイルス(HIV)感染者が5月、高知市内の病院で内科を受診しようとしたところ、感染を理由に断られたことが、エイズ治療の中核を担う高知大学医学部付属病院への取材で明らかになった。県内では昨秋、別の感染者が同様の理由で、歯科診療所の受診を拒まれている。県は、医療従事者の啓発に乗り出した。

県、医療機関の啓発強める

高知大学医学部付属病院(南国市)によると、高知市の病院で5月、風邪をひいて内科を受診しようとしたHIV感染者が「エイズなら高知大の付属病院で治療を」と窓口で言われ、受診をあきらめた。昨秋は、別のHIV感染者が、かかりつけの歯科診療所で感染を告げたところ、歯科医師は「外に知られる可能性があるるので」と以後の治療を

断ったという。歯科診療所の風評を意識した発言とみている。
エイズ治療については、厚生労働省(旧厚生省)が1993年、各都道府県に拠点病院を2カ所以上選定するよう求め、県内では5病院が指定されている。県内のHIV感染者の大半が高知大医学部付属病院の外で治療を受けている。同病院エイズ治療対策子

ーム代表の武内世生(よしかず)医師は「薬の進歩で今は一般の人と同じような生活を送っている患者が多い。エイズに直接関係のない病気が身近な医療機関で受診したいというニーズは強い」と話す。エイズウイルスはB型肝炎などと比べると感染力が弱く、通常の対策をとれば感染のリスクは抑えられるという。
県健康対策課は今年度、歯科の分野で受け入れ先となる医療機関のリストを作成した。要望があれば、患者に提供する。9月には、受け入れ先に決まった県内の13歯科診療所に、高知大医学部付属病院が医療用器具の取り扱いや汚染物の処理、汚染事故時の対処方法を伝えた。来年1月には、

歯科医師や歯科衛生士が感染予防を学ぶ講習会を開く。来年度以降は、歯科以外の分野でも同様の取り組みを進める方針だ。

健康対策課の宮地洋雄(ひろし)は「HIV感染者が、これまでに明らかになった内科や歯科だけでなく、ほかの診療科でも不快な思いをしている可能性がある。医療従事者に正しい知識を得てもらおう取り組みを進めたい」と話している。

日常では感染せず

HIVは感染者の精液や血液が相手の体内に入ることと感染し、HIVの増殖で免疫力が低下するとエイズを発症する。くしゃみやコップの回し飲みといった日常生活では感染しない。厚生労働省エイズ動向委員会によると、2013年末時点でHIV感染者とエイズ患者は計約2万人。県内の医療機関を通じて報告があったHIV感染者とエイズ患者は計50人いる。

(西村泰緒美)